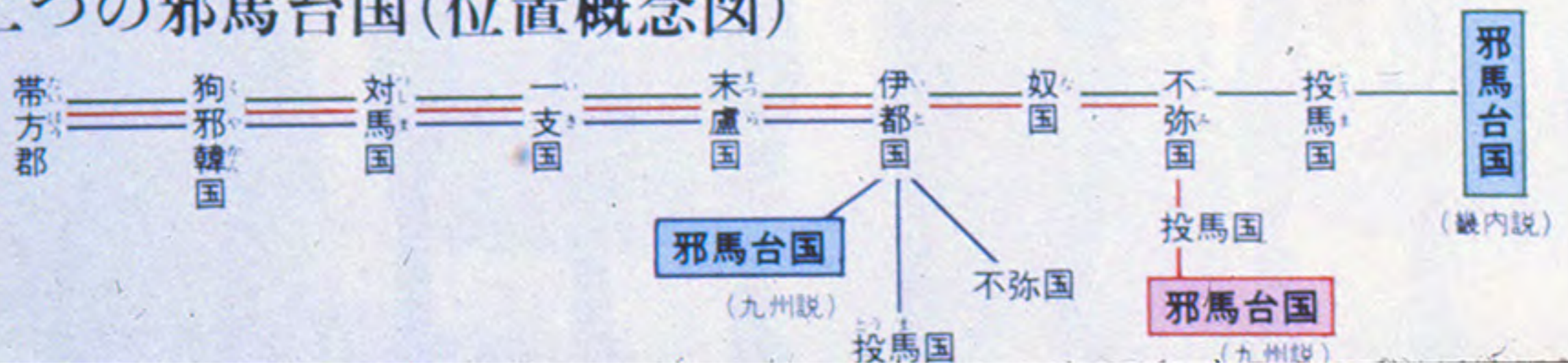
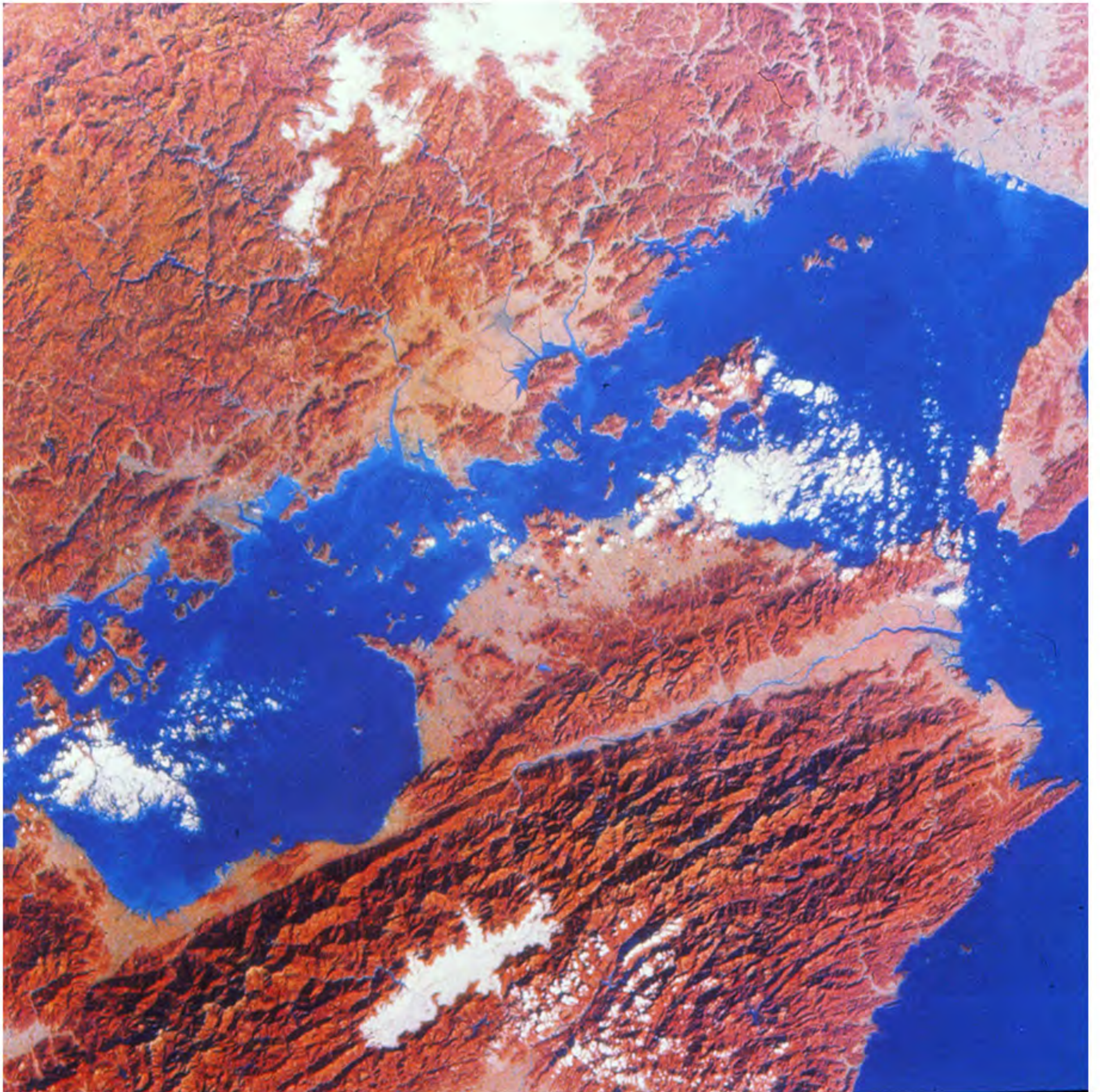


邪馬台国の推定位置と道すじ



二つの邪馬台国(位置概念図)





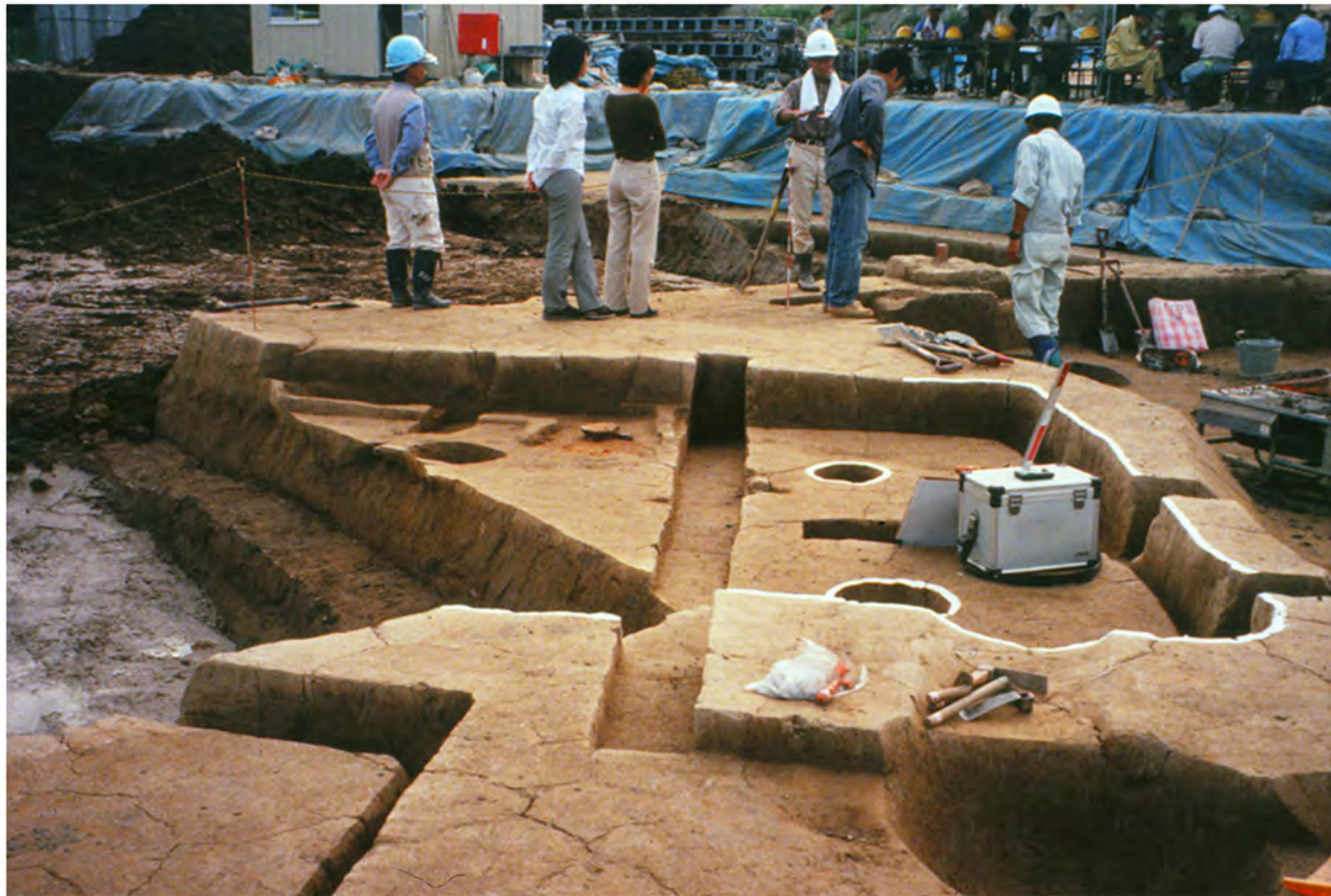














国指定史跡 津島遺跡

岡山市いずみ町

昭和46年1月5日指定

平成14年12月19日追加指定

岡山県総合グラウンドとその周辺には、弥生時代から古墳時代を中心とし、縄文時代から近代にわたる貴重な遺跡が広がっています。

昭和43(1968)年、岡山武道館の建設工事に弥生時代前期の集落と水田が発見されました。わが国が水田稲作を始めた頃の様相を知る上で極めて重要なものであることから、保存を求める声が全国的に高まり、翌年建設地を変更して遺跡を保存することになりました。

昭和46(1971)年には史跡に指定され、さらにその後の調査で得られた成果から、平成14(2002)年には追加指定がなされ、計67,020㎡が史跡となっています。

平成17年3月 岡山県教育委員会

국가지정사적

쓰시마유적

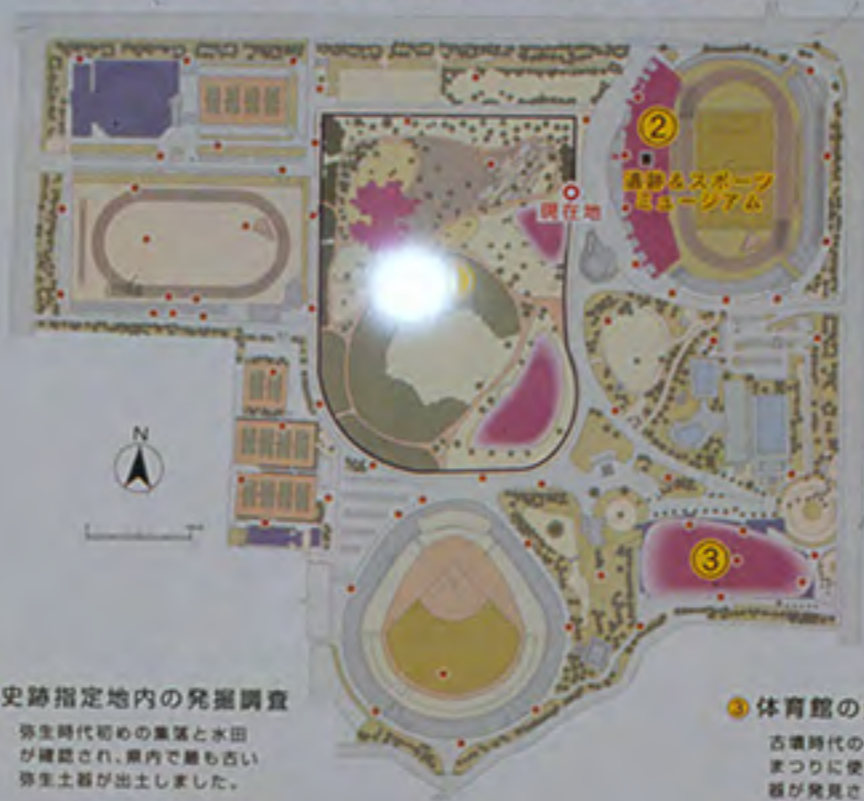
A National Designated Historic Site Tsushima Site

Many important archaeological remains from Jomon to the modern period are distributed in and around this park.

In 1968, during the construction of the Okayama Martial Arts Hall, one of the oldest Japanese rice paddies to have been found up until that time (Early Yayoi period) was discovered, along with a nearby settlement. A nationwide campaign calling for its preservation was mounted, and the planned location of the hall was finally changed.

This site was designated as a National Historic Site in 1971. Some areas were added in 2002 as a result of recent excavations. The total registered area is 67,020 square meters (16.36 acres).

● 発掘調査 ● 確認調査(試掘坑) □ 史跡指定範囲



① 史跡指定地内の発掘調査

弥生時代初期の集落と水田が確認され、景内で最も古い弥生土器が出土しました。



③ 体育館の発掘調査

古墳時代の井戸から、まつりに使われた土器が発見されました。



② 桃太郎スタジアムメインスタンドの発掘調査

弥生時代終わりの川が見つかり、建物の柱や木製農具・土器が多数出土しました。



津島遺跡





木製品は語る～弥生時代後期～

Yayoi period



細い木材を植物の蔓(つる)で編んだ部材



建物の壁や屋根の骨材などに使用したと考えられる。



建物の敷居と思われる縦放し(けはなし)



水田を耕しならす代掻き(しろかき)



えぶり

水田表面を均す(ならす)か、あるいは収穫後の乾燥時に耨(もみ)を広げる作業に使われたと考えられる。

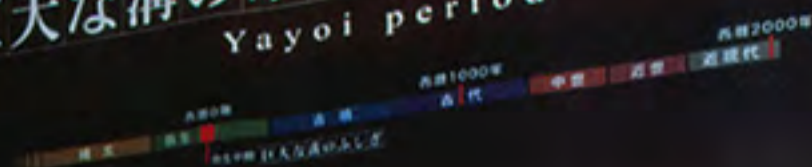


鍬柄(たてぎね)

脱穀(だっこく)後の耨(もみ)の調整や、粉砕、調理などに使用されたと考えられる。

巨大な溝のふしぎ～弥生時代中期～

Yayoi period



巨大な溝のふしぎ
弥生時代中期

弥生時代前期に形成されていた水田は、厚さ50cm以上もの土砂の厚層(たいせき)で埋もれている。弥生時代中期には、陸上競技場の南側で穴穴目状(たてあなじょうきょ)・土城(どしろ)等が確認されている。陸上競技場調査区では、発掘調査によって巨大な溝の存在が明らかになった。溝は前期の水田と同じように北東から南西に向かって伸びている。遺跡の水田(かんがいはようすい)として付記されている。



MUSEUM 流石SPORTS

巨大な溝のふしぎ～弥生時代中～ Yayoi period



この遺構は、弥生時代中期に築かれたと推定される。中央の溝は、排水や防衛の目的で掘られたと考えられている。周囲の溝や土垣は、集落の区画を示している。この遺構は、弥生時代の農業や集住の発展を示す重要な証拠となっている。



MUSEUM 流石SPORTS

水田が物語るもの～弥生時代前期～ Yayoi period



水田跡が物語るもの
～弥生時代前期～

発見された弥生時代前期の水田は、地盤に自
て開田がみられ、開田されたことがわかる。田の
くまられた跡（あぜ）は、水路として機能してい
たものだろうか。また、水路の跡も見られた。





弥生ムラのにぎわい~ヤマト

Yayoi period

遺構検出面実測図



稲遺穴(ちよぞうけつ)の跡
天竺(インド)の金銅は弥生時代に
くわいされたらしく、本島の弥生時代
代遺跡よりかなり早く使われて
いる。それでも稲遺穴の遺跡が滅んで
おり、多くの土器が出土した。

河川(かせん)の跡
河川からの大量の木製遺物の発見
された。特に高床式建物(たかのかし
たて)の遺跡や農具等は、弥
生時代の人の生活の様子を
明らかにしている。

土器の跡
弥生時代の土器は、
縄文時代の土器と異なり、
土質が硬く、器形も多様
で、中には土師器(つち
じぎ)も出土している。











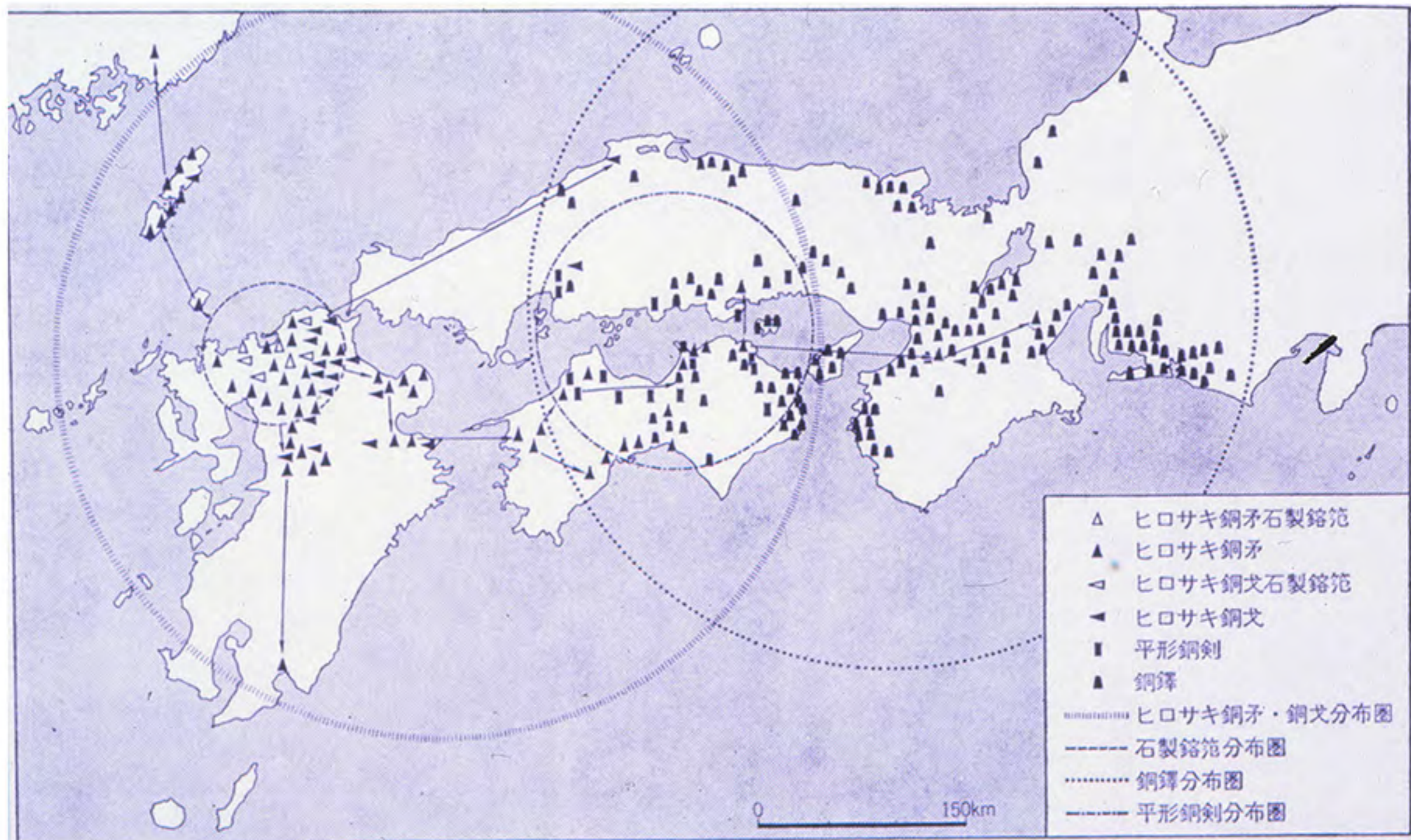
銅鐸形土製品

赤松郡山陽町
山陽田地造或地造出土



銅鐸形銅製品

真庭郡落合町
下市瀬遺跡出土







一緒に出土した土器



鉢付台

鉢



器台

高杯



ほっこつ
卜骨(弥生後期)
《岡山市足守川加茂B遺跡》





22 岡山市貝殻山遺跡の遠望(北海岸から、第1部15参照)

23 貝殻山遺跡5号住居址



















異つ赤な裡内の朱

本館の展示品は、約7000年前の縄文時代の土器で、その中には朱を塗ったものがある。朱は、赤い土を焼いたもので、土器の表面を赤く染めることができる。この朱は、土器の内部に塗られており、外部からは見えない。これは、土器の内部を赤く染めることで、土器の耐久性を高めるために行われていたと考えられている。



縄文時代の土器

縄文時代の土器は、約7000年前から約3000年前にかけて作られた。この時代の土器は、主に赤土や黒土で作られ、その表面には縄文と呼ばれる文様が施されている。この時代の土器は、主に食器や貯蔵容器として使われていたと考えられている。

縄文時代の土器

縄文時代の土器は、主に赤土や黒土で作られ、その表面には縄文と呼ばれる文様が施されている。この時代の土器は、主に食器や貯蔵容器として使われていたと考えられている。

縄文時代の土器は、主に赤土や黒土で作られ、その表面には縄文と呼ばれる文様が施されている。この時代の土器は、主に食器や貯蔵容器として使われていたと考えられている。





吉備と播磨の首長たち

七つ坑1号墳 (岡山市)



墳丘断面図
〔近藤義典・高井健行編「七つ坑古墳群」
七つ坑古墳群発掘調査報告、1987年〕



特殊形状銅鏡と文様パターン
〔古市秀由「特殊形状銅鏡の研究」
『考古学研究』43-1, 1996, および
近藤・高井編『七つ坑古墳群』〕

浦間茶白山古墳 (岡山市)



墳丘断面図
〔宇田正博「吉備の前期古墳 - 浦間茶白山古墳の調査報告 -」『古市学』9, 1987年〕



特殊形状銅鏡と文様パターン
〔古市秀由「特殊形状銅鏡の研究」『考古学研究』43-1, 1996年〕

権現山51号墳 (兵庫県津町・播磨市)



鏡の組み合わせは、3古墳でほぼ共通するよう
です。浦間茶白山と権現山の1号とは銅鏡をもち
ますが、これも鉄器とともにこの時期の古墳に広
く共通してみられる要素です。注目すべきは鏡で、
権現山の1号には、近畿の勢力から配られたと考えられている三角縁神鏡が
ありましたが、浦間茶白山・七つ坑1号の鏡は三角縁神鏡ではありませんでした。権現山の1号
は、銅鏡をみるかぎり、ほかの2古墳よりも鏡内との結びつきが強かった可能性があ
ります。

The mirrors with triangle rim are considered to have been distributed from the central polity in Kinai as prestige goods. Gongen'yama had five of them while other two tumuli had none, suggesting the closer connection between the chief buried in Gongen'yama and Kinai.



特殊形状銅鏡と文様パターン
〔古市秀由「特殊形状銅鏡の研究」『考古学研究』43-1, 1996, および近藤・高井編『七つ坑古墳群』〕

3古墳とも、弥生時代の古鏡で考案された特殊形状に由来する鏡輪をもっています。
All the three tumuli have cylindrical Haniwa originated from Kibi (Okayama)

権現山51号墳(兵庫県津町・播磨市)、浦間茶白山古墳(岡山市)、七つ坑1号墳(岡山市)は、3世紀後半に築かれた、吉備と播磨にそれぞれ本拠をもったほぼ同世代の首長たちの古墳です。この3古墳にはいくつかの共通点と相違点があり、そこにうかがえるから相互の関係を通じて、古墳時代の政治構造を復元する手がかりが得られます。

What were the political relationships between the three chiefs buried in Gongen'yama 51 tumulus, Uramatehachiyama tumulus, and Nanatsuguro 1 tumulus in the political system of Kofun period? Analysis of the similarities and differences between the tumuli may

浦間茶白山は前方後円墳で墳丘長140m、権現山51号と七つ坑1号とはともに前方後方墳で、墳丘長もほぼ同じ43mと45mです。前方後円墳と前方後方墳では、前方後円墳のほうがツルクは上だったと考えられています。浦間茶白山古墳がほかの2古墳をしのいでいたようです。

Keyhole-shaped mounds are considered to have been of the higher status than double square mounds. Therefore, Uramatehachiyama seems to have exceeded the other both in their shape and size.





終